

「子ども達を主の教育と訓戒によって育てなさい」エペソ6：4

堀田修一 20・10・11

I 文脈、鍵の御言葉＝①「むしろ、御霊に満たされなさい」5：18。まず、神の恵みに、御霊に満たされる事なしには、自分の力では、御言葉を実行する事は出来ない。もう一つの鍵、原則＝②「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」5：21。これが根底にある。主の恵みに感謝し主を恐れ尊び、互いに従う、仕え合う心が大切。「はい」と「いいえ」を愛を持って言える関係。支配しない、支配されない関係。これなくしては、良い人間関係は生まれない。神から離れた世は、神の正しい教えを行う真の力を失い、仕え合わず、支配し合っている。悲惨な事件が多い。人には、主の恵み、救い、いのちのみことばの教えと力がどうしても必要！ますます明確になって来ている！人間の片寄った価値観による教育改革ではなく、正しい土台、命ある御言葉が必要。私達が、地の塩、世の光として真の救い主と御言葉を真の希望と真の基準を失った今の世の人々に確信をもって伝える事が出来る事を感謝したい。「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」（伝道者の書12：1）。若いうちに、主を信じ救われ、真の生き方を教えられる聖書を読める人、みことばを暗唱する人は幸い！※警え：歯磨き。若い時から？

II 1. 「父たちよ」：4。父は、秩序ある権威の立場、神から与えられた正しく導く責任、使命が与えられている。幼い子ども達が、母親にだけ相談するのではなく、父と母に相談する。妻も夫を立て、自分だけで進めず、夫と共に相談し判断する。子どもはどちらに実権があるかを察知する。子どものしつけ、養育は、父と母、両親の仕事、責任。父と母が、主において一致して子どもを育てる。「父たちよ」には意味がある。父親が家庭における自分の立場、責任を放棄し、ほとんどを母親（妻）に任せっきりにならないように。このみことばは、父親にだけでなく、母親に、若い人々を指導し、導き育てる立場の人々、神の家族としての教会にも適用できる。※事情があり、片親だけで、子育てをする事も起きる。失望してはならない。神に祈りつつ子育てをしたい。父親、母親だけで、立派に育てられている子ども達もたくさんいる。※証し：私の親友も。本日のみことばも、互いの人間関係のあり方に適用できる素晴らしいバランスのある教え。大人も、子ども時代の事を思い、子どもの立場になり耳を傾けたい。

2. 私達人間の問題、弱さは、一方の極端か、他方の極端に走ってしまう事→①子どもをしつける事を一切しない。自由奔放にさせてしまう。それでは、子どもは健全に育たない。人間は罪をもって生まれて来るので、自由のままなら罪のままとなる。②反対に、愛も思いやりもなく、子どもを支配し、縛り付け、がんじがらめにする極端。これらの極端を聖書は教えていない。聖書の教えは、完全なバランスが取れている事。決して片寄らない公正さ、恵みとまこと（大切な戒め）が両立している。「この方は恵みとまことに満ちておられた」（ヨハネ1：14）。私達を恵みとまこととて育てて下さる主。

3. 「自分の子ども達を怒らせてはいけません」：4。子どもが、親に「従い」「敬う」義務を持つ（エペソ6：1-3）のと同様に、親も、子どもへの大切な義務、責任がある。父たち、又は親は、又は指導者、教師は、子ども、聖徒、部下から従順と尊敬を引き出す愛の責任（まず先に恵みとまことを示す）がある。「子どもを怒らせてはいけません」。

①子どもが悪い事をした時、叱ってはならないの意味ではない。愛をもってしかる、注意をする事が大切。「父がいとしい子を叱るように、主は愛する者を叱る」（箴言3：12）。

②まず御霊によって自制し自らの気分、感情を御霊によってコントロールしていただかなければ、子ども、聖徒、部下への真の訓練、しつけはできない。それ故に5：18が鍵。酒に酔ったまま（冷静さ、制御の欠如）では、子ども、聖徒、部下を正しく指導する事は出来ない。それこそ、子ども、聖徒、部下、弟子を怒らせる事となる。自らが感情的になっているなら、良い指導が出来ず、害を与えてしまう。頭がかつとなっ

て、激情にかられ暴力を振るうなら、子どもを、聖徒を、部下を、弟子を正しく訓練する事はできない（箴言19：18）。

③まず親自身、教師、指導者自身が、恵みとまことに満ちた神、主のみことばによる教育と訓練、子どもが謝る時心から赦す。親も子に謝る。その為には、毎朝、みことばを読み味わい、礼拝の説教で養われる必要がある。まず、親自身、教師自身、指導者自身が御霊の実（神の愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）に満たされ続ける事が大切。反発、挑発を受けても、かっとなって反応しないよう祈る。かっとなつては、正しい判断、ただしい訓練、指導、しつけはできない。

④気まぐれ、日によって違うお天気屋で接しない。ある日は、気分で甘やかし、ある日は感情的に激怒してしまうなら、子どもや指導される側は、困惑し、親を、指導する人を尊敬できなくなる。主にある一貫性が大切。親自身、教師、指導者、上司が、一貫性のある間違いのない聖書の御言葉を感謝し、みことばに教えられて歩むなら幸い。子どもは、聖徒、部下は、親、教師、上司を観察し、見つめている。そこから見習う。

⑤子ども、聖徒、弟子の声に耳を傾けたい。子ども、聖徒、部下、弟子の気持ちを良く聴く。主に祈りつつ、真実に聞き合い、語り合う。エペソ4：25。これがない時、子ども、聖徒、弟子、社員を反逆、敵対関係、断絶、自死へ追いやってしまう。

⑥子どもや聖徒には子ども自身の人格、その子の人生への主のご計画がある事を認める。子どもや聖徒や弟子は、親、指導者の所有物、言うなりになるロボットではない。子ども、聖徒、弟子は、神が預けられた大切な人格、存在である。親や指導者、教師の希望、夢を子どもに押し付けてはいけない。助言はして良いが、最終的な判断、決断は、子ども自身が、恵みとまことに満ちた神に祈りつつ決断できるように（真の自立を目指して）育てる。

⑦子どもの個性（神は、一人一人に、ユニークな個性を与えておられる）を重んじつつ、成長段階で接し方を祈りつつ調整する。素直な時、みことばを共に学び、反抗期（親からの自立への段階に、子どもが、もがいている時。子ども自身が自己理解、自己受容に苦しんでいる時）の時、祈りつつ主に委ね、そっと見守り祈り、主に委ねる。忍耐の時。※証し。神は働いて下さる。i しっかり抱き、みことばをしっかりと教えるのに時がある。ii 巣立つ準備をさせるのに時がある。iii 父、母を離れる、自立するのに時がある。親の側も子離れに時がある。※例外がある。子どもに、特別な弱さや、特別な病がある時は、支え続ける知恵を神に求めたい。iv 子どもとの関係の前に、夫婦の関係を築いていく事も大切。※夫婦の関係を続けられない時もある。祈りつつ対処したい。主にある自分の人生を築いて行くのに時がある。v 親の恩に報いる（I テモテ5：4）のに時がある。「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」ピリピ1：9、10。※今、本気で親と教会が、次の世代を育てるなら教会は成長し続ける！子ども達、若者を主の愛で愛し育てるビジョンのない教会には、明るい未来はない！来週のぶどう狩りも大切な時！大人も、子どもも、楽しい思い出は、宝物である。※母の証し

Ⅲ 神の家族である教会として、教会全体で、教会の子ども達、若者に愛をもって接したい。※証し。

1. 親の分がある。家庭礼拝。子どもが小さい時には、共に遊び、聖書物語を読んであげる。中学生になれば、ジュニアみことば光等、高校生になれば、理解できるなら、みことばの光やマナ等でデボーション、暗証聖句の素晴らしさを！※証し。親自ら、みことばの恵みを分かち合う。

2. 若者が洗礼を希望すれば、牧会者は心から御言葉を教える。

3. 神の家族である教会の子どもステップや同学年やお兄さん、お姉さんのような信仰の先輩から愛され、刺激を受け、信仰が育っていく。教会が伝道師を招聘し、若者を愛し育てて行く。教会も、その伝道師にだけ、任せないで、支援していく。

4. J E C Aのキャンプへの参加の援助や大学生になれば、キリスト者学生会(KGK)への参加を勧める。※証し。